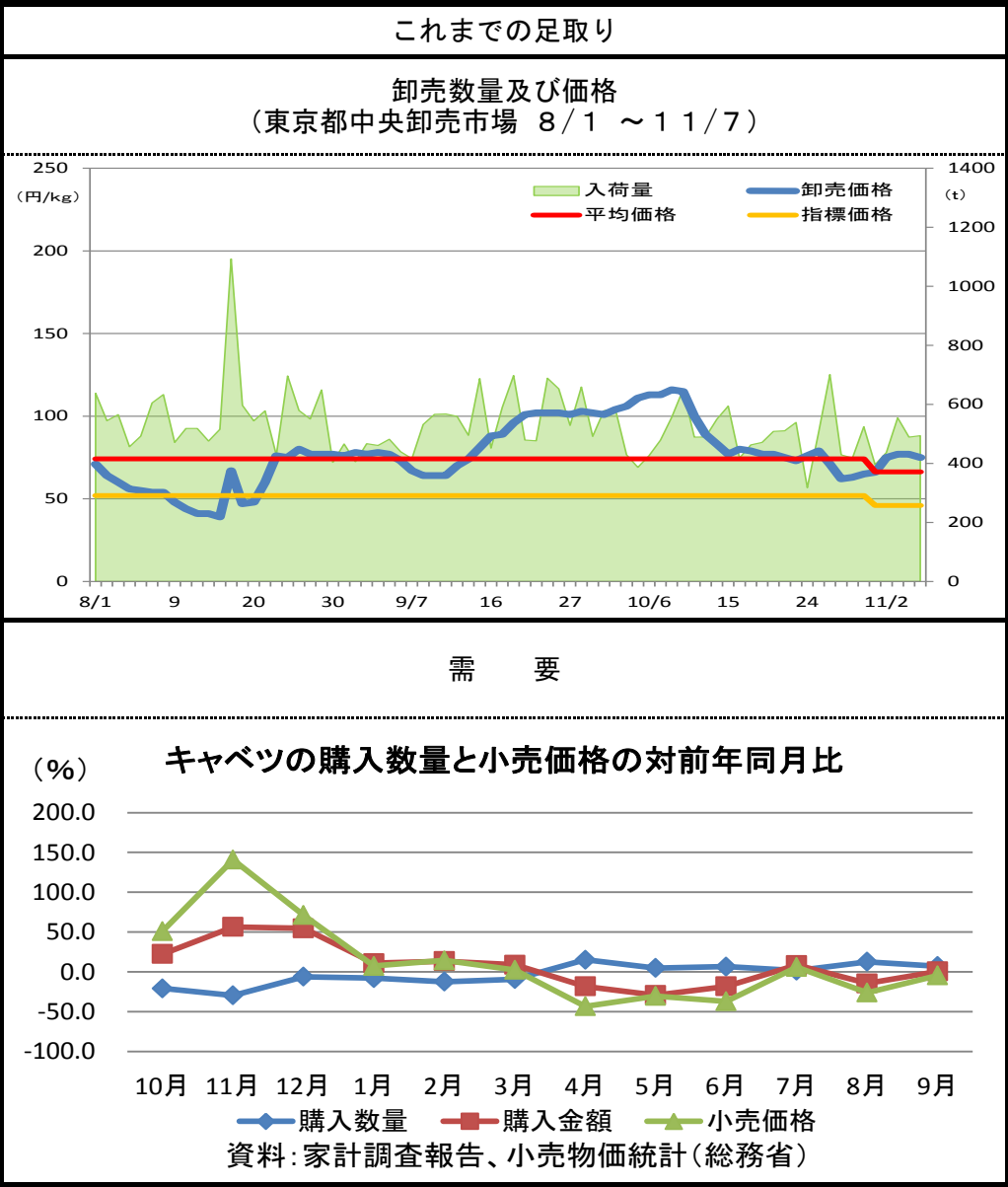


# ○23年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

## 冬キャベツ（11～3月）

資料2-2



### 今後の見通し

#### 供給 (生産・出荷の現況及び今後の天候見通し)

(主な産地：千葉、神奈川、愛知)

- 作付面積は、千葉は前年同。愛知及び神奈川は前年比103%。  
生育状況は、千葉は天候不良の影響を受けたが、10月中旬以降の好天により回復し平年並みの作柄。神奈川は台風15号の影響により一部地区で塩害の影響を受けたが、全体的に概ね順調。愛知は夏場の高温、長雨による定植遅れ、台風15号の影響を受け、1週間程度の遅れ。  
出荷開始は、千葉は9月下旬、神奈川は10月上旬、愛知は10月中旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、気温は平年並み又は平年より高め、日照時間は平年並み、降水量は平年より少なめの見込み。

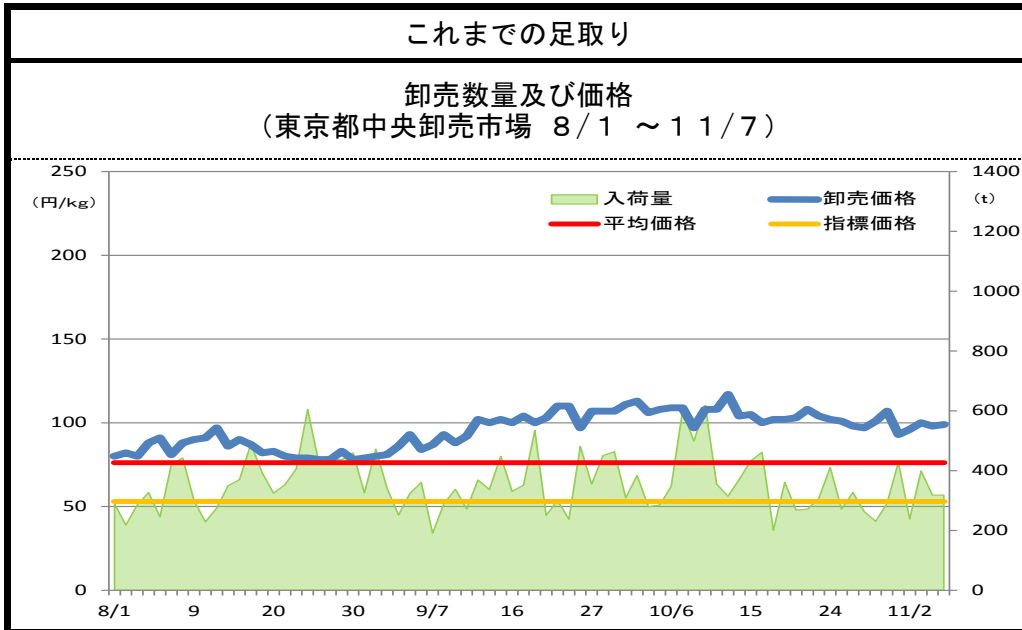
  

#### 野菜需給・価格情報委員会 での需給・価格の見通し

- 供給見通し  
作付面積は、主産地である愛知県及び神奈川県が前年をやや上回り、千葉県が前年並みで、全体としては前年をやや上回る見込み。  
生育状況は、一部の県で台風等の影響を受けたものの、全体としては概ね順調。  
出荷量は、作付面積がやや増加し、生育も概ね順調なことから、少なかつた前年をかなり大きく上回り、平年を上回る見込み。
- 需要・価格見通し  
出荷量が不作の前年を上回ることから、価格は、前年を下回る見込み。なお、年内の生育が前進した場合は、年明け以降、価格が前年を上回る可能性がある。

# ○23年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

## たまねぎ（11～4月）

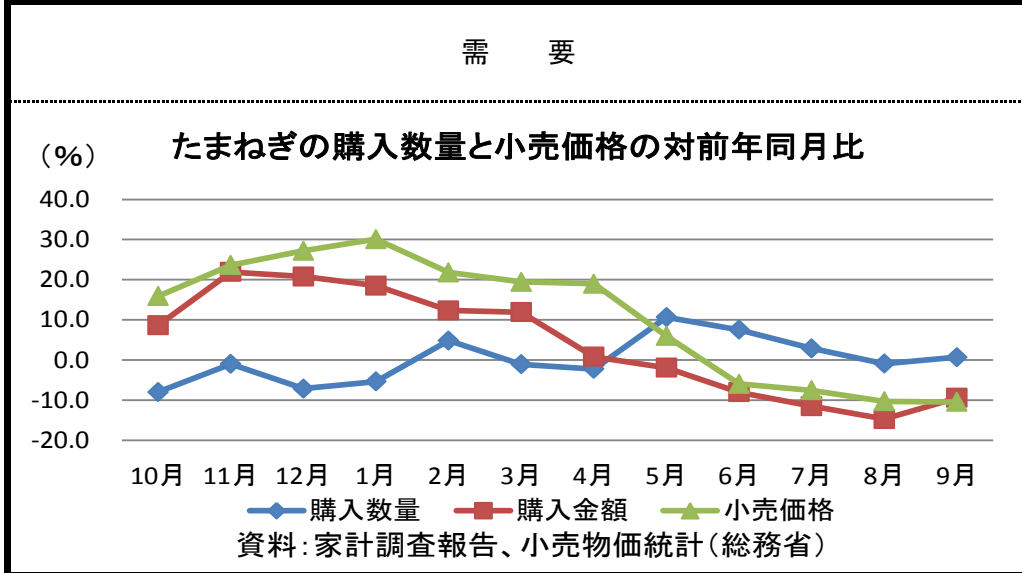


今後の見通し

供給  
(生産・出荷の現況及び今後の天候見通し)

(主な産地：北海道)

- 1 作付面積は、主産地である北海道は前年比97%。  
生育状況は、北海道西部は概ね不良、東部は平年並み。早生ものは定植遅れによる生育不良等の影響がみられるが、中生以降のものよりも収量は高い見込み。中生・晩生ものは定植遅れによる生育不良、肥大期の高温・干ばつの影響により、地域によって著しく減収となる産地がある見込み。  
出荷開始は、8月上旬。
- 2 この先1ヶ月の気象予報は、気温は平年並み、日照時間は平年並み、降水量は平年より少なめの見込み。

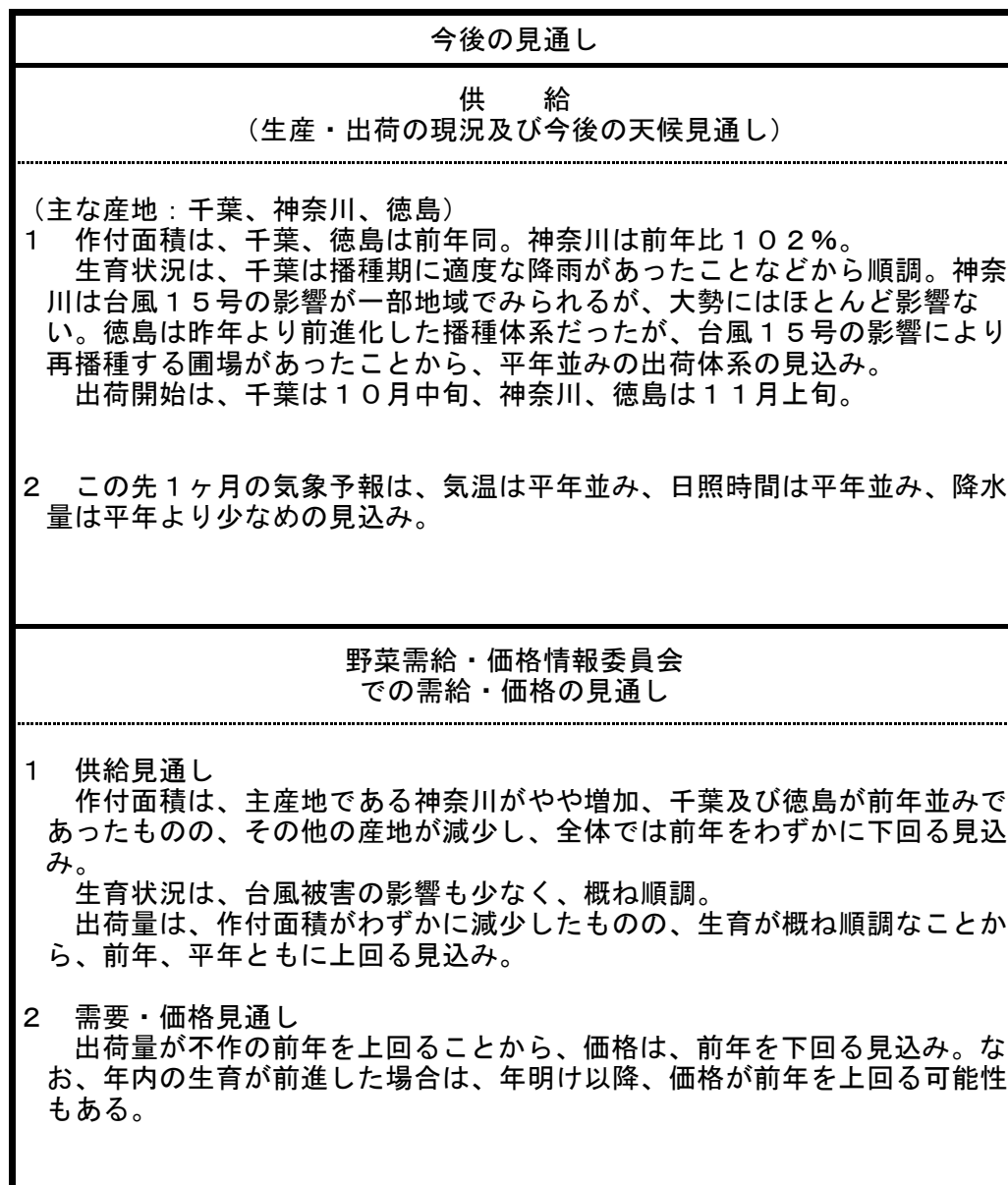
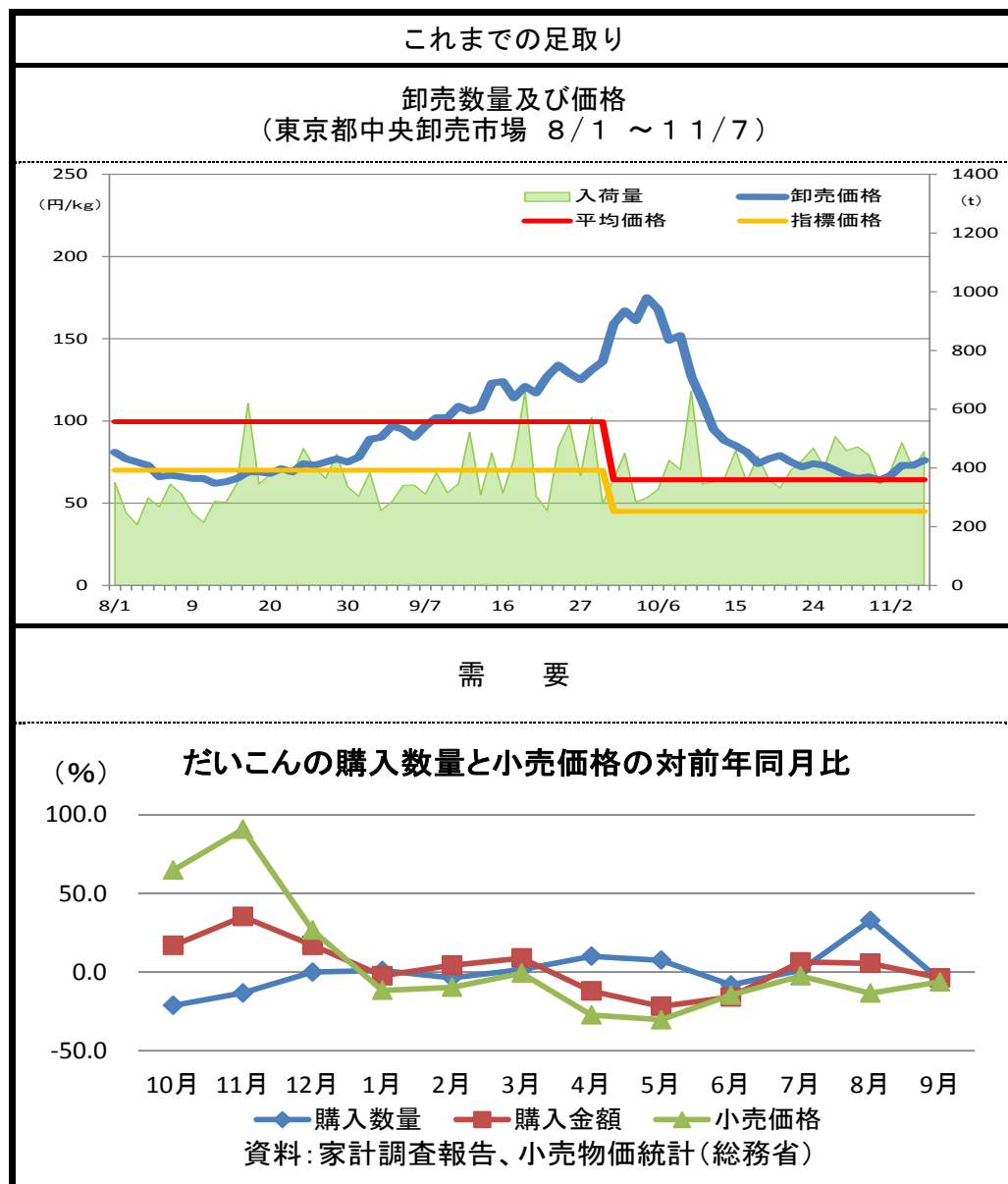


野菜需給・価格情報委員会  
での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し  
作付面積は、主産地である北海道の一部地域で雹害による廃耕があったことから前年をやや下回る見込み。  
生育状況は、産地や作型毎によってばらつきはあるが、全体としては前年よりは順調。  
出荷量は、作付面積がやや減少したものの、生育が不作だった前年より順調なことから、少なかった前年をやや上回るものの、平年との比較では大幅に下回る見込み。
- 2 需要・価格見通し  
出荷量が不作の前年を上回ることから、価格は、前年を下回るものの、平年比では上回る見込み。

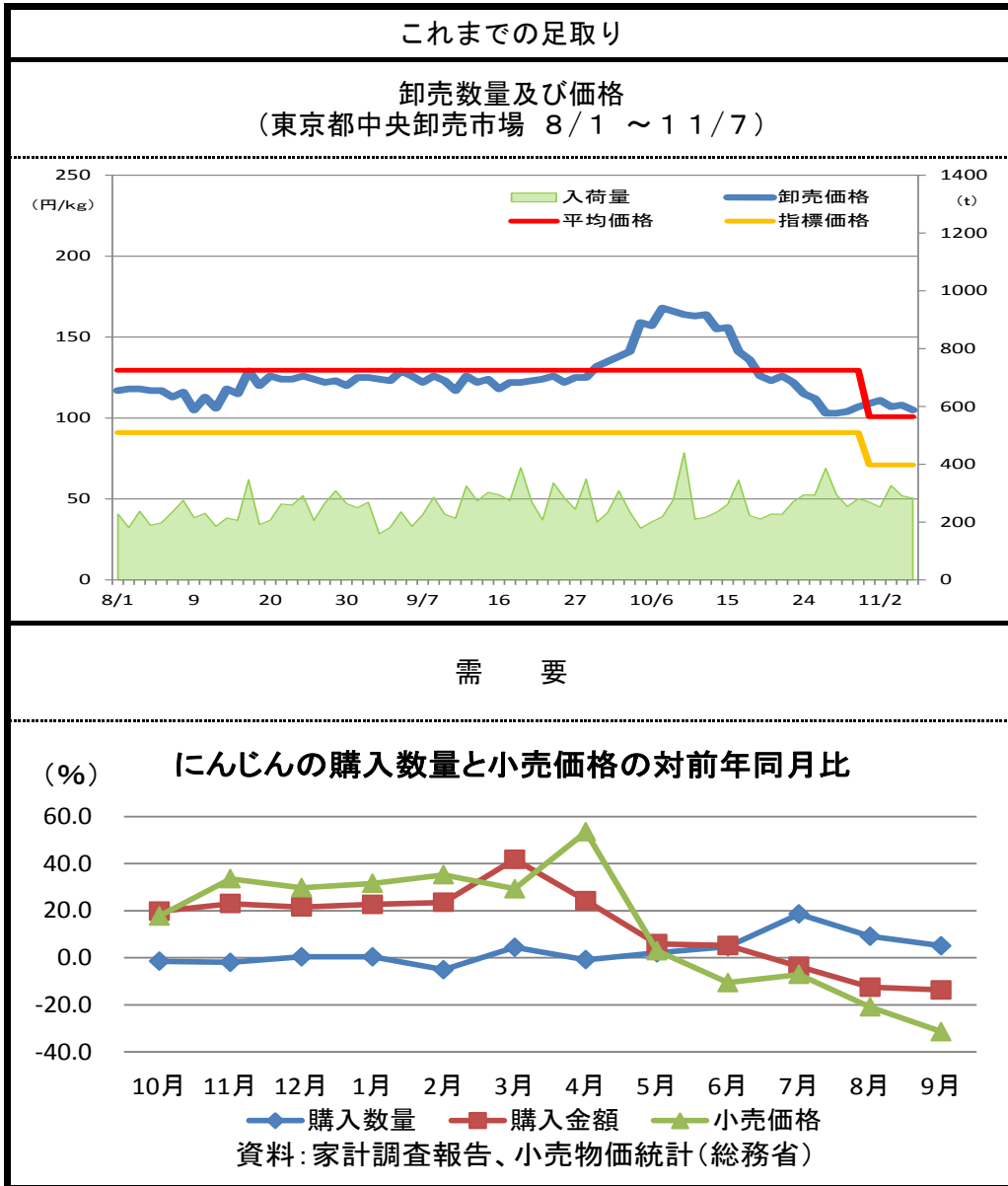
# ○23年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

## 秋冬だいこん（10～3月）



# ○23年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

## 冬にんじん（11～3月）



今後の見通し

供 給  
(生産・出荷の現況及び今後の天候見通し)

(主な産地：千葉、愛知、長崎)

1 作付面積は、千葉は前年比101%、長崎は同102%、愛知は同91%。  
生育状況は、千葉は天候不良の影響により若干の遅れがみられるが、概ね順調。愛知は年内分は概ね順調だが、年明け分は台風の影響により平年より2週間程度の遅れ。長崎は9月以降干ばつ気味で推移していたが、現在は順調。  
出荷開始は、千葉は10月下旬、愛知は11月中旬、長崎は11月上旬。

2 この先1ヶ月の気象予報は、気温は平年並み、日照時間は平年並み、降水量は平年より少なめの見込み。

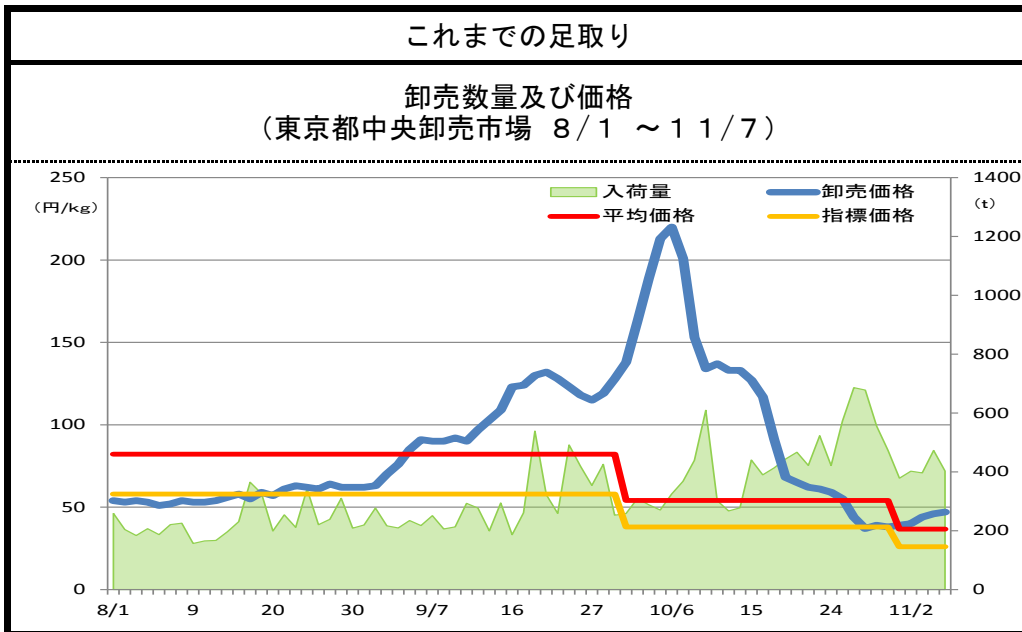
野菜需給・価格情報委員会  
での需給・価格の見通し

1 供給見通し  
作付面積は、主産地である千葉及び長崎で前年をわずかに上回るものの、愛知で前年をかなり下回り、全体では前年並みとなる見込み。  
生育状況は、台風等の天候不良により若干の遅れが見られるものの概ね順調。  
出荷量は、作付面積が前年並みで、生育も主力の千葉産が順調なことから、前年、平年ともに上回る見込み。

2 需要・価格見通し  
出荷量が不作の前年を大幅に上回ることから、価格は、高かった前年を大きく下回り、平年並みとなる見込み。なお、加工・業務用野菜の国産回帰の動きもみられる。

# ○23年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

## 秋冬はくさい（10～3月）



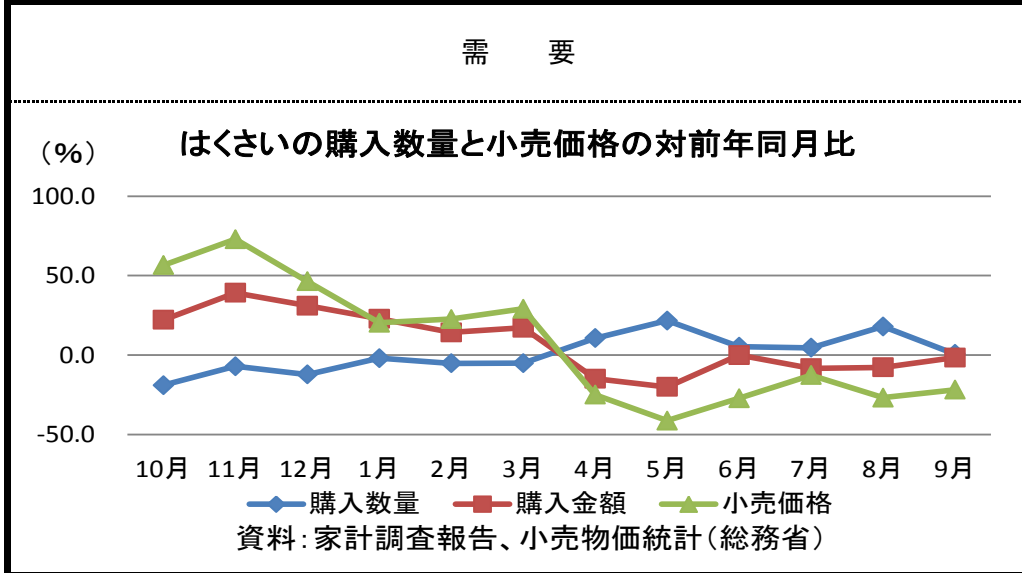
今後の見通し

供給  
(生産・出荷の現況及び今後の天候見通し)

(主な産地：茨城、愛知、兵庫)

1 作付面積は、茨城及び兵庫は前年同。愛知は前年比93%。  
生育状況は、茨城は台風15号の影響により、出荷時期の早いものほど損傷を受けているが、遅いものは回復する見込み。愛知は8～9月の高温と台風の影響により播種・定植が遅れたが、10月は好天となったことから回復傾向。兵庫は台風の影響により出荷開始が遅れたため、年内は出荷数量の減少が見込まれるが、年明け以降は天候が安定すれば回復する見込み。  
出荷開始は、茨城及び愛知は11月上旬、兵庫は11月下旬。

2 この先1ヶ月の気象予報は、気温は平年並み又は平年より高め、日照時間は平年並み、降水量は平年より少なめの見込み。



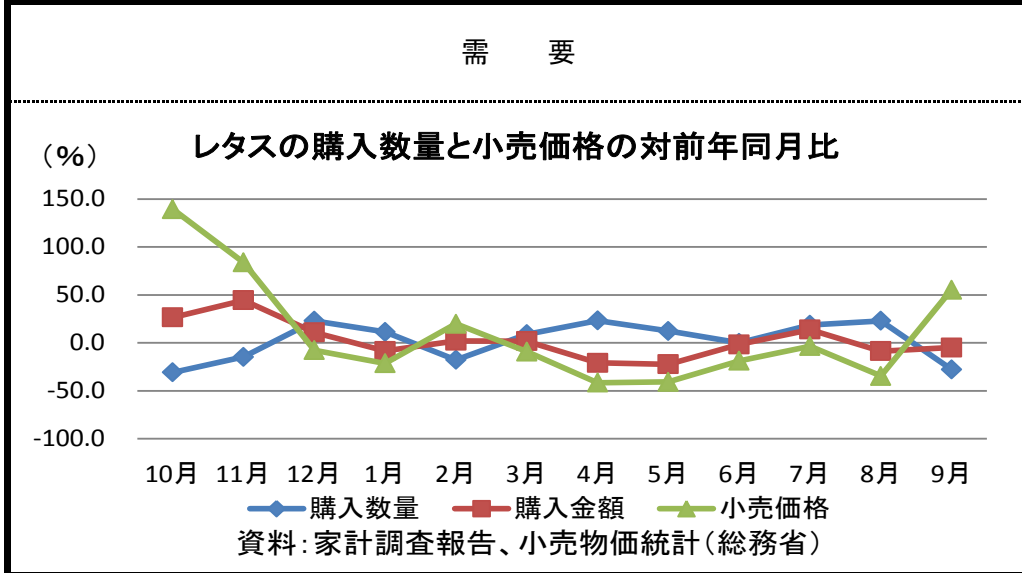
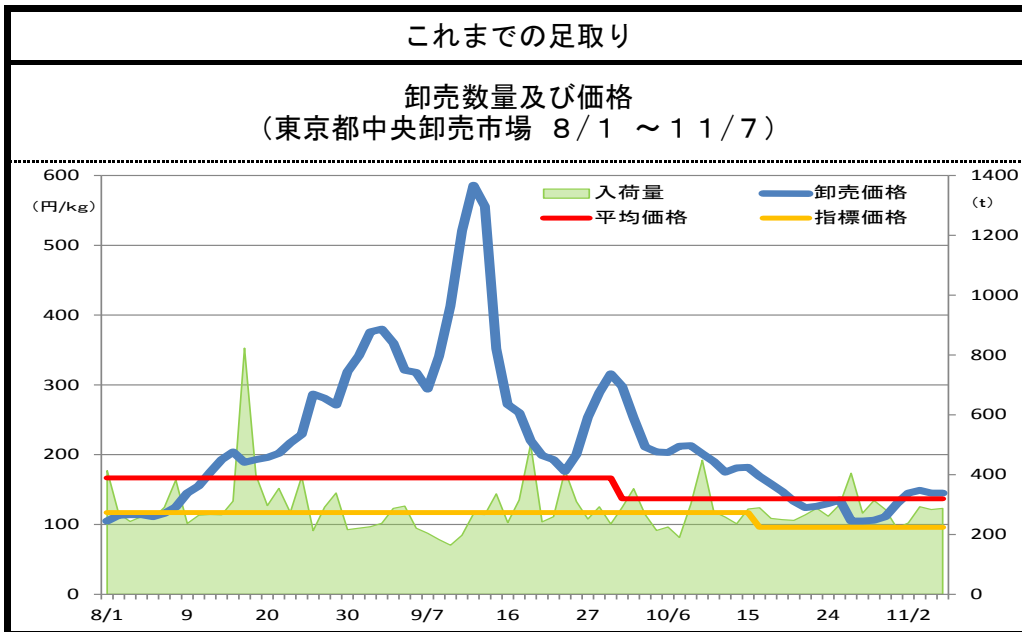
野菜需給・価格情報委員会  
での需給・価格の見通し

1 供給見通し  
作付面積は、愛知が前年を下回るものの、茨城及び兵庫が前年並みとなり、全体では前年並みとなる見込み。  
生育状況は、台風の影響等により、葉の損傷や播種・定植の遅れが見られるものの、10月の好天により回復する見込み。  
出荷量は、作付面積が前年並みで、台風の影響等により葉の損傷や播種・定植の遅れが見られるものの、10月の好天により生育が回復傾向にあり、前年、平年ともに上回る見込み。

2 需要・価格見通し  
出荷量が前年を上回ることから、価格は、今後の天候にもよるが、前年をやや下回る見込み。特に、気温が高めに推移すれば、需要の減少と出荷量の増加から、価格はさらに下落する可能性がある。

# ○23年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

## 冬レタス（11～3月）



今後の見通し

供 給  
(生産・出荷の現況及び今後の天候見通し)

(主な産地：茨城、静岡、兵庫、香川)

1 作付面積は、茨城は前年比96%、静岡は同99%、兵庫は同98%、香川は前年同。  
生育状況は、茨城は台風15号通過前に講じた防風対策、通過後の防除により生育への影響は少ない。静岡は台風15号の直撃を受けたことにより、早い作型では一部定植苗の流出やマルチ剥がれがみられるが、12月以降の出荷分については大きな影響はない模様。兵庫は台風の影響により1週間程度の遅れが見られるが、今後の天候が安定すれば前年並みの出荷に回復する見込み。香川は定植後の台風12・15号や降雨の影響により、生育不良、徒長傾向。  
出荷開始は、茨城は9月下旬。静岡、兵庫及び香川は10月中旬。

2 この先1ヶ月の気象予報は、気温は前年並み又は前年より高め、日照時間は前年並み、降水量は前年より少なめの見込み。

野菜需給・価格情報委員会  
での需給・価格の見通し

1 供給見通し  
作付面積は、香川が前年並みであるが、茨城、静岡、兵庫等が前年を下回り、全体では前年をわずかに下回る見込み。  
生育状況は、兵庫、香川で台風の影響による生育に遅れが見られるものの、全体としては大きな影響はない模様。  
出荷量は、作付面積がわずかに前年を下回り、台風の影響により、一部産地で生育遅れが見られるものの、全体としては前年をやや上回り、前年をわずかに上回る見込み。ただし、1～2月には前年を下回ることもある。

2 需要・価格見通し  
出荷量が前年をやや上回るものの、価格は、前年並みとなる見込み。ただし、1月から2月にかけては出荷量が減少し、価格が前年を上回る可能性がある。

## その他秋冬野菜全体の消費の動向など

### 【景気、天候などの要因による消費動向】

- ・景気が低迷しており、消費は減退傾向にある。
- ・今年の秋は例年より気温が高いため、きのこやはくさい等鍋食材の需要が弱く、逆にレタス、きゅうり、トマト等サラダ食材の需要が依然として順調である。

### 【震災、原発事故の影響による消費動向】

- ・原発事故に伴う消費減退は、徐々に薄れてきている。
- ・ただし、きのこ等の新たな放射性物質の検出や、ホットスポットの報道がされると、関係する県の幅広い品目も敬遠される場合がある。特に、食の安全性への関心が高い学校給食や子供を持つ主婦から敬遠されることがある。

### 【野菜全体の販売状況】

- ・消費者が購入しやすい価格帯や量目を工夫し、いままで1個売りしていたものを1/2、1/4等カット売りをしたり、複数個の袋売りのものをバラ売りにしたり、大玉だけの品揃えから小玉等複数の規格をそろえるようにしている。なお、カット売りの増加が販売量の減少につながっている。
- ・直売所においては、野菜を加工して中食として提供する取組が盛んになってきている。
- ・消費者の多様な選択に対応するため、同一の品目について複数産地のものを併売している。また、選択できる利便性から、インターネットを利用した通信販売が活発になっている。

### 【秋冬野菜の消費動向等】

- ・一般家庭においては、キャベツ、はくさい、たまねぎ等で柔らかい品種のものが好まれる傾向となっている。一方、業務用のキャベツにおいては、寒玉系のように堅く巻きのしまった歩留りの良いものが好まれる。
- ・冬場の野菜消費には、蒸し鍋による需要拡大が期待できる。

### 【野菜の輸入動向】

- ・①中国産野菜へのアレルギーの減少、②国産野菜の価格高騰の頻度が高くなっていることのリスクヘッジとして、一定量を輸入により確保しようとする動き、③アジアに進出した外食産業等におけるアジア全域での原料調達動き、④円高やデフレの進展等から、輸入量は増加傾向にある。

### 【その他】

- ・大学進学時や新社会人になる際の一人暮らし等、自炊を始めるタイミングに合わせて食育を行うことが重要である。